

# 須川川水系河川整備計画

平成17年8月

長 崎 県

# 須川川水系河川整備計画

## 目 次

1 . 須川川 <sup>すかわがわ</sup> 流域の概要.....	1
( 1 ) 概 要.....	1
( 2 ) 自然条件及び社会条件.....	1
( 3 ) 自然環境及び利用状況.....	1
( 4 ) 関連計画.....	2
須川川水系流域概要図.....	3
2 . 須川川の現状と課題.....	4
( 1 ) 治水の現状と課題.....	4
( 2 ) 利水の現状と課題.....	4
( 3 ) 河川環境の現状と課題.....	4
3 . 計画対象区間.....	5
4 . 計画対象期間.....	5
5 . 河川整備計画の目標に関する事項.....	5
( 1 ) 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項.....	5
( 2 ) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項.....	5
( 3 ) 河川環境の整備と保全に関する事項.....	5
6 . 河川整備の実施に関する事項.....	6
( 1 ) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要.....	6
( 2 ) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所.....	8
( 3 ) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項.....	8
須川川水系整備計画位置図.....	9

## 1. 須川川流域の概要

### (1) 概要

須川川は、島原半島南部の長崎県南高来郡西有家町に位置する流域面積約 2.3 km<sup>2</sup>、幹川流路延長約 1.4 km の二級河川です。その源を水分（標高 158 m）に発し、水田地帯から西有家町の中心市街地を南下し、河口より約 0.4 km 付近で都市下水路風呂川を合わせ有明海に注ぎます。

図 1-1 に須川川水系流域概要図を示します。

### (2) 自然条件及び社会条件

流域の気候は海洋性の温暖な気候で、年平均気温は 17 程度です。年降水量は 1,700 mm（口之津アメダス：平成 6 年～平成 15 年）程度ですが、梅雨の影響を受け 6 月の雨量が特に大きくなっています。

流域の大部分はなだらかな丘陵地で耕作地帯となっていますが、河口付近の平坦地は住宅や商店の密集する西有家町の中心地となっています。

流域内の人口は、約 2,600 人（平成 16 年 3 月末現在）で若干減少傾向にありますが、西有家町人口の約 1/3 を占めています。

主要な交通網としては、須川川を横断する島原鉄道や国道 251 号があり、それらは島原半島の幹線路として重要な役目を担っています。

西有家町ではそうめんの製造が盛んで須川川下流部には製造工場が集まり、そこで生産されるそうめんは町を代表する特産品“島原手延べそうめん”として全国に出荷されています。また、毎年 11 月には、町のシンボルで須川橋の欄干にも鎮座する伝説の大男“みそ五郎”にちなんだ「みそ五郎祭り」が開催され、パレードや数々のイベントが催されています。

### (3) 自然環境及び利用状況

須川川の流域は、その河道状況から、田畑のあいだを流れる上流部と市街地を流れる下流部の 2 区間に区分できます。

上流部の河岸はほとんどが石積みの護岸となっており、石積みの隙間にはカラムシやメヒシバなどの植物が繁茂し、ギンブナやドンコなどの魚が生息するなど、周辺の田園風景と調和した河川環境が形成されています。また、川の上下流を行き来するカワセミの姿も見られます。

下流部については市街化が進んでおり、そのなかで風呂川合流点付近までが感潮区間となっています。感潮区間の河岸はコンクリートブロックにより整備され、まとまった植生は確認できませんが、満潮時にはボラやクサフグが見られ、干潮時に現れる砂礫の州はコサギやアオサギなどの餌場となっています。一方、風呂川合流点より上流は、川岸まで人家が建ち並んでいるも

の、ほとんどの区間が石積みの河岸で、石の隙間にはホシダやカラムシなどが、また川岸の所々にはエノキなどが生育しています。また、ゴイサギやカモ類の生息も確認できます。

河川の利用としては、須川川が西有家町の中心地を流れていることから、川沿いの道路や橋が地域住民の生活用道路として利用されています。また、天満神社の夏越し祭り・秋祭りの際には天神橋の周辺に露店が立ち並び、11月の「みそ五郎祭り」の際には須川橋周辺がパレードの順路となっています。

水質に関しては公共用水域の類型指定を受けておらず、経年的な観測は行われていませんが、平成12年と平成16年に水質観測を行ったところ、BODについては概ね環境基準のA類型（2.0mg/ℓ以下）またはB類型（3.0mg/ℓ以下）に相当する値となっています。また、pHについては調査結果を平均的にみると酸性の傾向がみられます。

#### （4）関連計画

須川川が位置する西有家町では、平成9年3月に「西有家町総合計画」が策定されており、「たやすまい 躍動のリズム 永遠に」をまちづくりのスローガンとして、「美しく快適な生活環境に恵まれた住みたいまち」、「楽しく心豊かな健康と福祉のまち」などをまちづくりのテーマとして諸施策を押し進めていくこととなっています。

また、長崎県では基本理念を「豊かな地域力を活かし、自立・共生する長崎県づくり」とする長期総合計画を策定しています。河川に関連する施策としては、「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

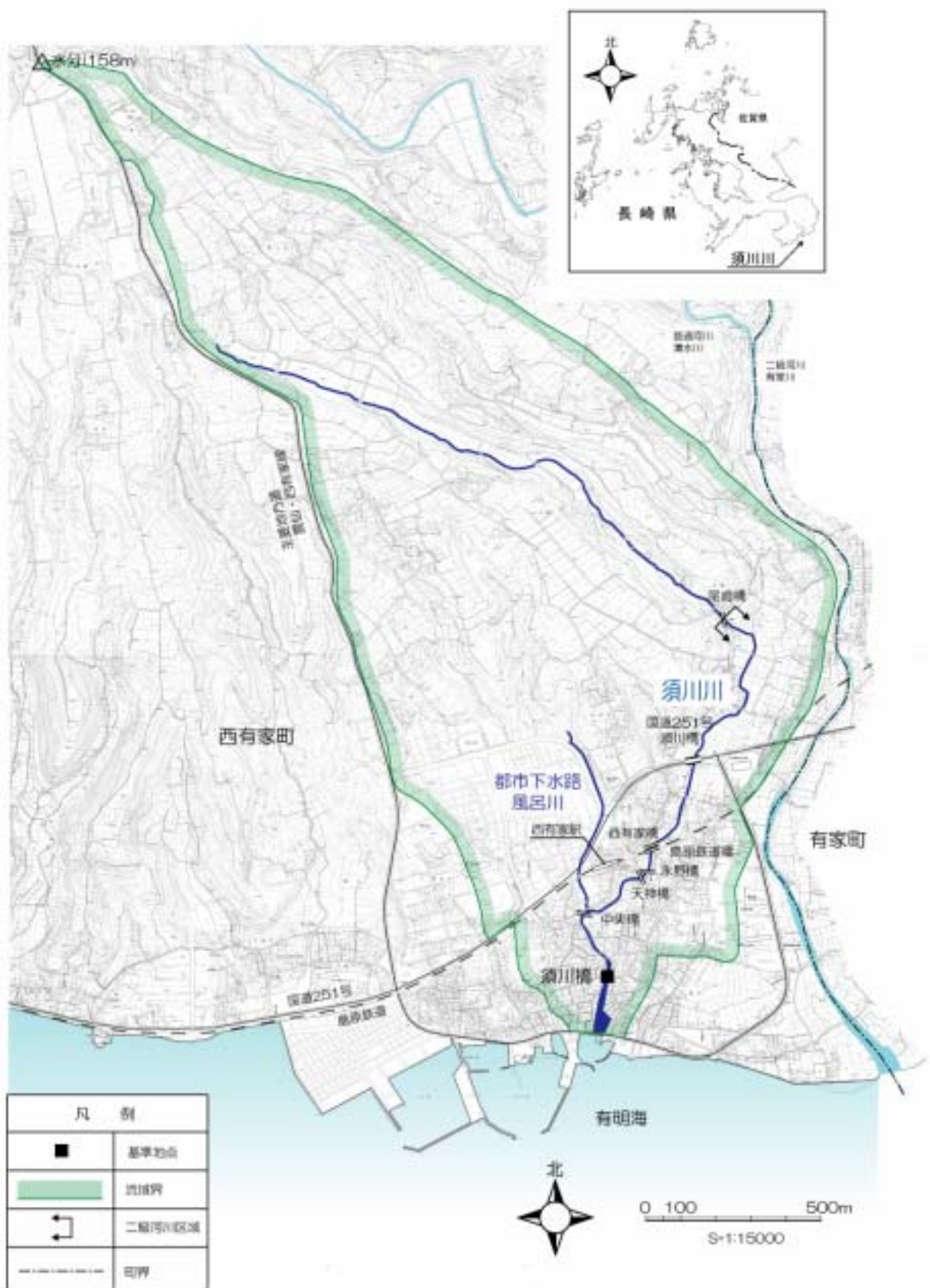


图1 - 1 須川川水系流域概要图

## 2. 須川川の現状と課題

### (1) 治水の現状と課題

須川川は、川幅が狭いことから過去に幾度となく洪水氾濫を起こし、特に昭和 47 年 7 月の水害時には下流域の住宅地を中心に床下浸水など甚大な被害を引き起こしました。

これを契機として昭和 53 年より河道改修が進められ、現在は河口から 360m の風呂川合流地点までの改修が完了していますが、それより上流の島原鉄道橋付近の住宅密集地においては、大雨のたびに護岸いっぱいまで水位が上昇しており、今後も治水対策を継続していく必要があります。

### (2) 利水の現状と課題

須川川の河川水は農業用水として利用されていますが、隣接する<sup>ありえがわ</sup>有家川やその支川の<sup>しみずがわ</sup>清水川から農業用水が導水されていることもあり、河川水は比較的豊富で、近年これらの水利用に著しい影響を与えるような渇水実績はありません。

### (3) 河川環境の現状と課題

須川川の上流部には昔からの石積み護岸や河畔の樹木が残っており、周辺の田園風景と調和した河川環境となっています。一方、下流部は西有家町の中心部を流れていることから周辺の市街化が進んでおり、川のそばまで家屋が建ち並び、あわせて河岸が急勾配となっているところが多いため、人が水辺に近づくことが容易ではありません。

このようなことから、今後の河川整備においては、現在残っている自然環境の保全に努めるとともに、地域の人々が川と親しめるような場所を確保する必要があります。

また、須川川の流域内には、雲仙温泉郷を源とする清水川からの農業用水としての導水があり、河川水が酸性化していると考えられることから、魚類等の生息に配慮した水質の改善が望まれます。

### 3．計画対象区間

本計画の対象とする区間は、図 6-3 に示すとおり河口から二級河川上流端までの約 1.4 kmとします。

### 4．計画対象期間

本計画の対象とする期間は、概ね 30 年間とします。

### 5．河川整備計画の目標に関する事項

#### (1) 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

須川川の想定氾濫区域における人口・資産の状況等を考慮し、計画規模の降雨に伴って発生する流量の安全な流下を図ります。

また、計画規模を越える洪水等における被害を軽減するため、地域住民や関係機関との連携の強化、河川情報の共有化の推進に努めます。

#### (2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

近年、須川川では地域住民の生活に著しく影響を与えた渇水実績はありませんが、今後とも地域住民や関係機関との緊密な連携のもとに、現在の河川環境に配慮しつつ、適正な水利用を図ることにより、流水の正常な機能の維持に努めます。

#### (3) 河川環境の整備と保全に関する事項

須川川は西有家町の中心部を流れる河川であり、地域の祭りなどを通じて住民が川に近づく機会も多いことから、河道整備を行う際には、人が川と親しめる場の確保に努めます。また、上流部において、周辺の田園風景と調和した現在の河川環境の保全に努めるとともに、下流の河道整備を実施する区間においては、魚道の設置などにより生態系の連続性にも配慮した整備を行います。

6 . 河川整備の実施に関する事項

( 1 ) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1 ) 河川工事の目的、種類及び施行の場所に関する事項

須川水系河川整備基本方針に位置づけられている河川整備のうち、計画規模の降雨に伴って発生する流量( 計画高水流量 )の安全な流下を図るため、風呂川合流点から国道 251 号須川橋直下流までの区間の河道整備を行います。

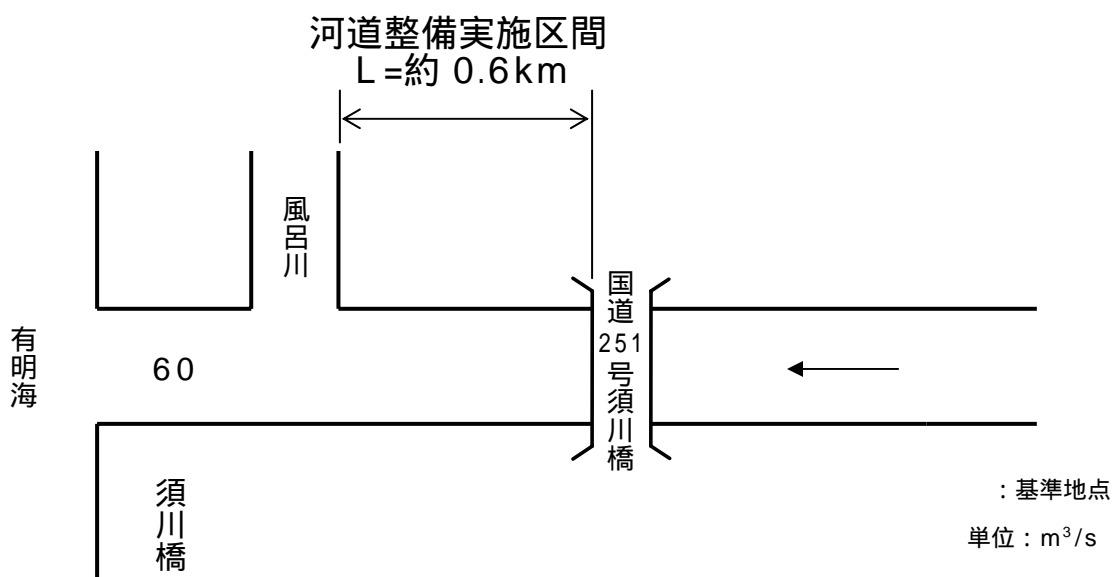


図 6-1 須川川計画高水流量配分図



## 2) 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

計画高水流量に対する流下能力を確保するため、風呂川合流点から国道251号須川橋までの約0.6kmの区間について、河道拡幅、河床掘削、橋梁架け替え、取水堰の改築等による河道の整備を行います。その際、魚道の設置により上下流の生態系の連続性を確保するなど、現在生息・生育している動植物の保全に努めます。また、必要に応じて、人々が水辺に近づきやすいよう階段を設置するなど親水性にも配慮します。

主要な地点における計画横断形状は、概ね下記のとおりとします。ただし、横断形状については、標準的なイメージを示したものであり、整備の実施においては現地状況等を調査し決定します。

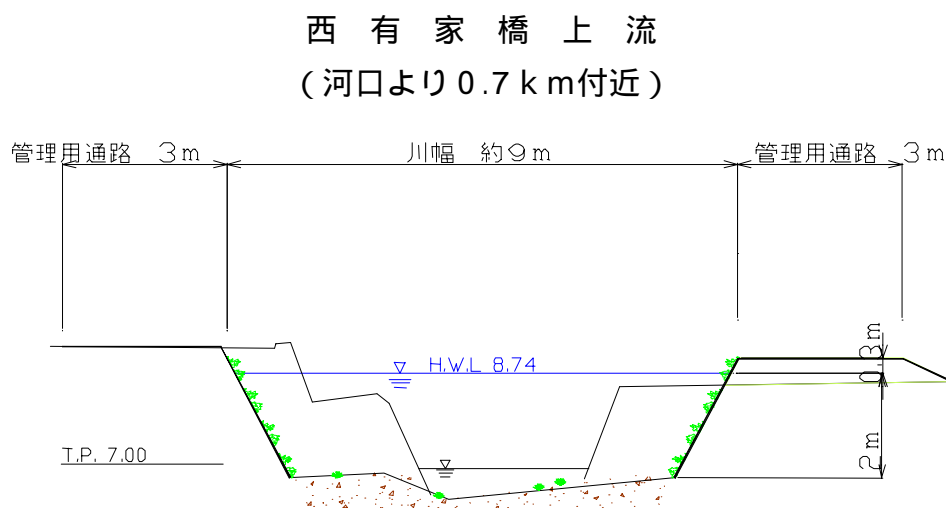


図 6-2 主要地点標準横断図

## (2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

### 1) 河川の維持の目的

「災害の発生防止」、「河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持」及び「河川環境の整備と保全」の各観点から、河川の持つ各機能を十分に発揮させることを目的に河川の維持を行います。

### 2) 河川の維持の種類及び施行場所

#### 護岸の維持・点検・補修

護岸については、亀裂や陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

#### 河積の確保

河道内の土砂の堆積状況等を確認し、必要に応じて堆積土砂の除去を行います。また、流水の障害となる河道内の植生については適正に管理します。なお、土砂除去及び植生管理にあたっては、河川環境へ極力配慮します。

#### 水質の改善・美しい景観の確保

水質改善に向けた調査検討、ごみ投棄防止の働きかけなどにより、地域住民の協力のもと水質の改善・美しい河川景観の確保に努めます。

## (3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項

### 1) 流域での取り組みにおける連携の強化

須川川をよりよい川とするには、地域住民と河川管理者が「川は地域共有の公共財産である」との認識のもと、連携して川を守り育てていくことが重要です。そのために、川の優れた価値を共有するための情報の発信や、河川清掃等の地域住民の自主的な活動に対する支援を行うなど、連携のための種々の方策を講じるように努めます。

また、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

### 2) 河川情報の共有化の推進

計画規模を超過する洪水や整備途上における施設能力以上の洪水に関しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携し警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施するとともに、ハザードマップ作成に向けた協力を行います。また平常時においても、ホームページ等を通じて河川に関する情報の共有化に努め、地域住民とのコミュニケーションの充実に努めていきます。

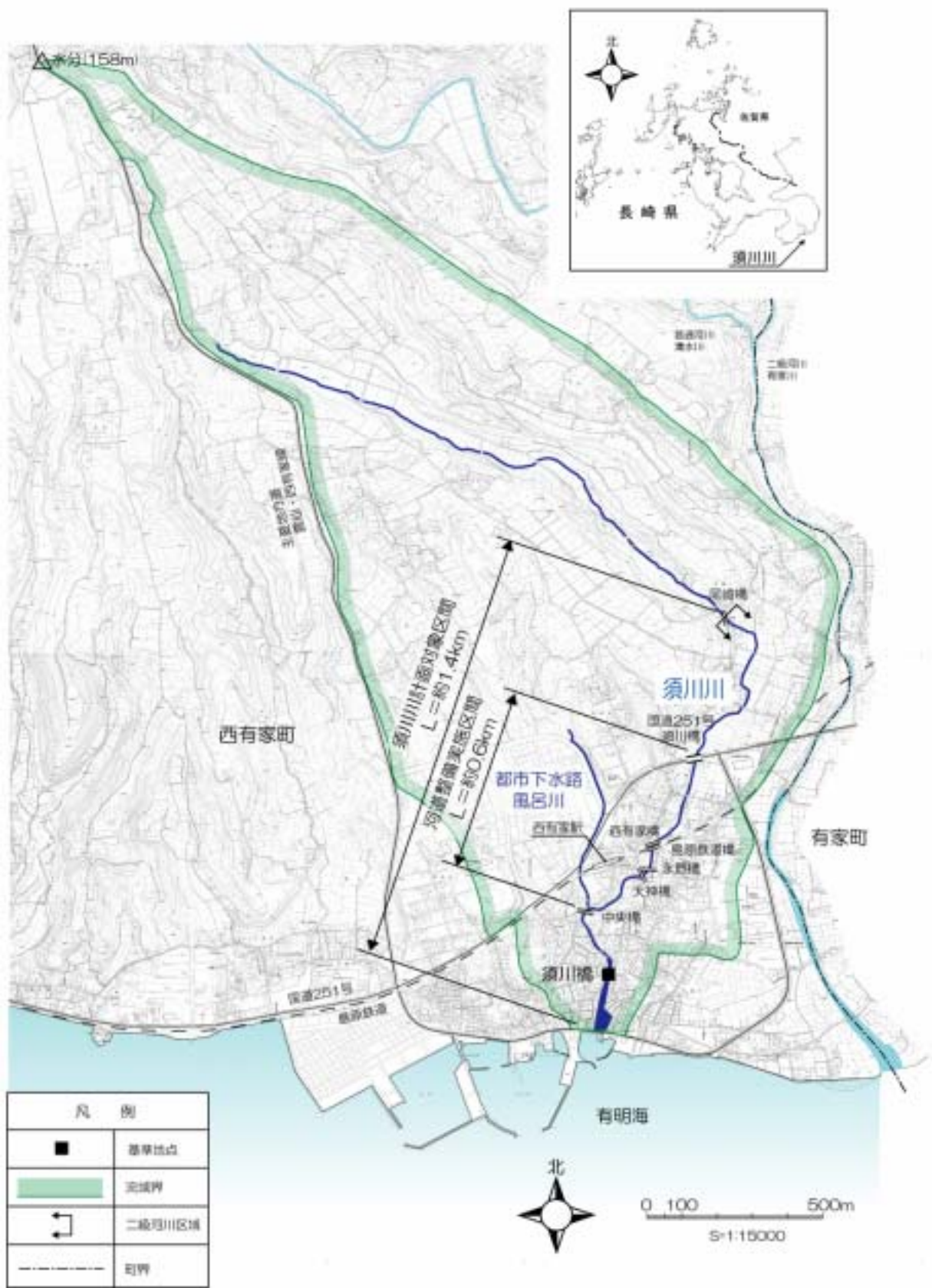


図6-3 須川川水系整備計画位置図